

トマトに発生する病害虫

6月の農作業

■コナジラミ

- 成虫の体長は約0.8mmと大変小さく淡黄色で見えにくい。
- 気温が上昇してくると増殖し、上の葉に集まり産卵する。
- 幼虫が葉に多数寄生することによって果実全体が赤く実らずに、淡橙色や黄緑色の縦縞やまだら模様ができる。
- 成虫が大量発生し、小さい果実を吸汁すると、熟れた果実の表面に小さな斑点として残る場合がある。



コナジラミ（成虫）

【防除】

- 初期の防除を徹底する。
- 特に葉裏に寄生しているので、農薬を散布する際には葉の裏に十分にかかるようにする。



トマトについたコナジラミ

適用農薬	希釈倍数	使用時期	総使用回数
トレボン乳剤	1,000倍	収穫前日まで	3回以内

■黄化病

- 黄化症状は上の葉へと移り、最終的に枯れあがる。
- タバココナジラミ等を媒介として、感染から1か月ほどで症状が現れる。
- 苦土欠乏症などの生理障害とよく似ており、判別が難しい。圃場をよく観察しコナジラミが発生しているかどうか確認する。



黄化病におかされたトマト

【防除】

- 使用できる農薬はないので、発病株は抜きとって圃場から持ち出して処分する。
- コナジラミ類を媒介により発生するので、コナジラミ類の防除を行う。
- 生育初期の感染により大きな被害につながる所以早めの防除を行う。



黄色くなったトマトの葉

ナスに発生する病害虫

6月の農作業

■テントウムシダマシ

- 葉の表を残して裏側を網目状に食べる。
- 春にジャガイモに発生し、ジャガイモ収穫後から成虫がナスへ飛来し、葉の裏に数十粒ずつかためて卵を産み付ける。
- 発生が多いと葉が食い尽くされ、花や茎にも被害が及ぶ。



テントウムシダマシ(成虫)

【防除】

- 虫または被害の発生を確認したら早めに防除を行う。
- 毎年発生しやすい圃場は特に注意し、早期の発見を心がける。



葉を食害されたナス

適用農薬	希釈倍数	使用時期	総使用回数
スミチオン乳剤	1,000~2,000倍	収穫前日まで	5回以内

■褐紋病

- 梅雨明け頃から発生し、7月中旬を過ぎたころから被害が出る。
- 最初に葉に直径1cmくらいの茶色の輪のような病斑ができる。
- 果実には丸みを帯びた病斑ができ、のちにへこんで小さな黒い粒が発生する。
- 発病した果実はへたの部分から落ちるか、そのまま乾燥して枯れる。



葉に病斑が現れたナス



褐紋病の被害果実

【防除】

- 排水不良の畑で発生しやすいので、高畝や排水溝を取るなどして水の溜まらない状態にする。
- 病気の発生を確認したら早めに防除を行う。
- 手遅れの場合、発病した枝や果実は圃場から持ち出し処分する。

適用農薬	希釈倍数	使用時期	総使用回数
ベンレート水和剤	2,000倍	収穫前日まで	3回以内

裏面はトマトに発生する病害虫を掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.350 令和2年6月15日発行